

日本百名山の花

穂高岳

ウラジロナナカマド紅葉

深田久弥は日本百名山において、「おそらく山岳団体に所属する人で、涸沢生活の経験を持たない人はいないだろう。」と記している。涸沢と言う巨大なカールから望む穂高連峰の岩の屏風を見なくて、日本の山は語れない。圧倒される山岳風景がそこにはある。

涸沢の夏には、北アルプスに普通に咲くハクサンイチゲ、ミヤマキンポウゲ、シナノキンバ

イ等が咲いている。しかし、秋のウラジロナナカマドの深紅の紅葉は、他の追従を許さない程の圧巻である。夏に白い花を咲かせ、秋には赤い実を付ける。

秋の紅葉は年によって色づきが違う。真っ赤になるのは十年に一度といわれる程、稀だ。二〇〇〇年の秋、十年に一度の赤さという情報が入ってきた。早速涸沢に登り、美しい紅葉を

目にした。翌朝、夜明け前にヒュッテを出て、懐中電灯で照らしながら屏風の頭に向った。ここから全貌を撮影するためだ。展望のよい屏風のコルに着くと、朝日が昇り始め、岩上には満月が出た。ウラジロナナカマド群落を朝日が照らし始めた瞬間、赤く燃えた。



予告

来年は新企画「野の花群像」を前半に、後半に「日本百名山の花」を掲載します。